

の結果として、内國に金貨の流通するもの多きの國に於ては、中央銀行にして低額面の發換券を發行すれば、市場に流通する金貨を回収し、將に減却せんとする中央銀行の正準貨備を充實するを得べく、斯る國の發換準備は確實なる二脚を基礎とするに反し、中央銀行の正貨準備以外に、之を充實す可き何等の金貨の流通せざる我國の發換準備は脆弱なる隻脚を基礎とするものと云はざる可からず。

如何にして我國の金貨本位制を維持し、又金貨準備を充實す可きやは年來の問題なり。金貨本位制を維持するには敢て内國に金の產出せらるゝを要せず、唯有利なる國際貸借の關係を有すれば即ち足れること前論の如くなるに拘はらず、我國は内地並に朝鮮に於ける金鑄業若しくは砂金採取業を獎勵し、以て内地產金額の增加することを企圖したり。然も最も有望なりと稱せらるゝ朝鮮の產金事業にして一年の產額一千萬圓を上らず、之を以て我國の外國に負ふ債務を決済し、國際貸借の狀態を有利ならしめんとするが如き、及ばざるの甚だしきものとす可し。而して輸出入の狀態を一變するに就ても、或は保護關稅策に依る外國品の排斥、内國品使用の獎勵等聊か努力の跡の認められざるに非ずと雖も、輸入を抑制して、輸

欠

# 欠



株式 同文館發行商業經濟書目

著譯者	書名	冊數	定價	送料
文學博士 内田銀藏	日本經濟史の研究 上卷	全一冊	金七圓五拾錢	廿四錢
同	日本經濟史の研究 下卷	全一冊	金七圓八拾錢	廿四錢
法學博士 氣賀勘重	國史總論及日近世史	全一冊	金五圓八拾錢	廿四錢
同	經濟政策 前編	全二冊	金六圓八拾錢	廿四錢
同	經濟政策 後編	全一冊	金七圓二拾錢	三十錢

版七十

堀江歸士  
先生著

改訂銀行論

菊判布裝全一冊  
紙數五百餘頁  
定價三圓四十錢  
送料十八錢

石澤久五郎先生著

本邦銀行發達史

菊判布裝全一冊  
紙數六百五十餘頁  
定價五圓八拾錢  
送料金十八錢

書中論ずる所の要旨を擧ぐれば銀行の性質效益より各種の營業科目に及び普通銀行と中央銀行との關係金融市場に於ける中央銀行の地位職分に就ては特に重きを置きて之を評論し、銀行の金利政策と國際間に於ける正價流出入との關係、其他我國現時の金融諸問題を論斷し、一讀能く銀行並に金融に關する諸種の疑惑を一掃するに足る。加ふるに文章の流麗、引證の該博、論斷の正確なる邦語銀行論中稀に見るの良書なり。

佐藤能雄	同	服部嘉香	上野陽一	大槻爲八	小泉信三	手塚壽郎
株式會社會計	商用文精義	商業文範及書式	英文商業通論	外國爲替實務誌	經濟學純理	ゴツセン研究
全一冊	全一冊	新最	人及事業	全一冊	全一冊	全一冊
金四圓八拾錢	金五圓五拾錢	金六圓九拾錢	金三圓四拾錢	金四圓貳拾錢	金三圓四拾錢	金五圓八拾錢
拾八錢	拾八錢	拾八錢	拾八錢	拾八錢	拾八錢	拾八錢



窪田文三	現代日本と社會問題	全一冊	金四圓
増田重喜	勞 勵 政 策	全一冊	拾八錢
神田孝一	工場法と勞働保護	全一冊	拾八錢
樹本卯平	工場より 觀たる 日本の勞働生活	全一冊	拾八錢
松崎壽	勞 勵 問 題 研 究	全一冊	拾八錢
古賀進	勞 動 者 物 語	全一冊	拾八錢
北澤新次郎	勞 動 者 問 題 上	全一冊	拾八錢
同 社會政策學會	婦 人 勞 勤 問 題	全一冊	拾八錢
	小 工 業 問 題	全一冊	拾八錢
		金壹圓八拾錢	拾八錢
		金壹圓貳拾錢	拾八錢
		金壹圓八拾錢	拾八錢
		金壹	圓
		金貳圓八拾錢	拾八錢
		金貳圓三拾錢	拾八錢
		金四圓八拾錢	拾八錢

終

